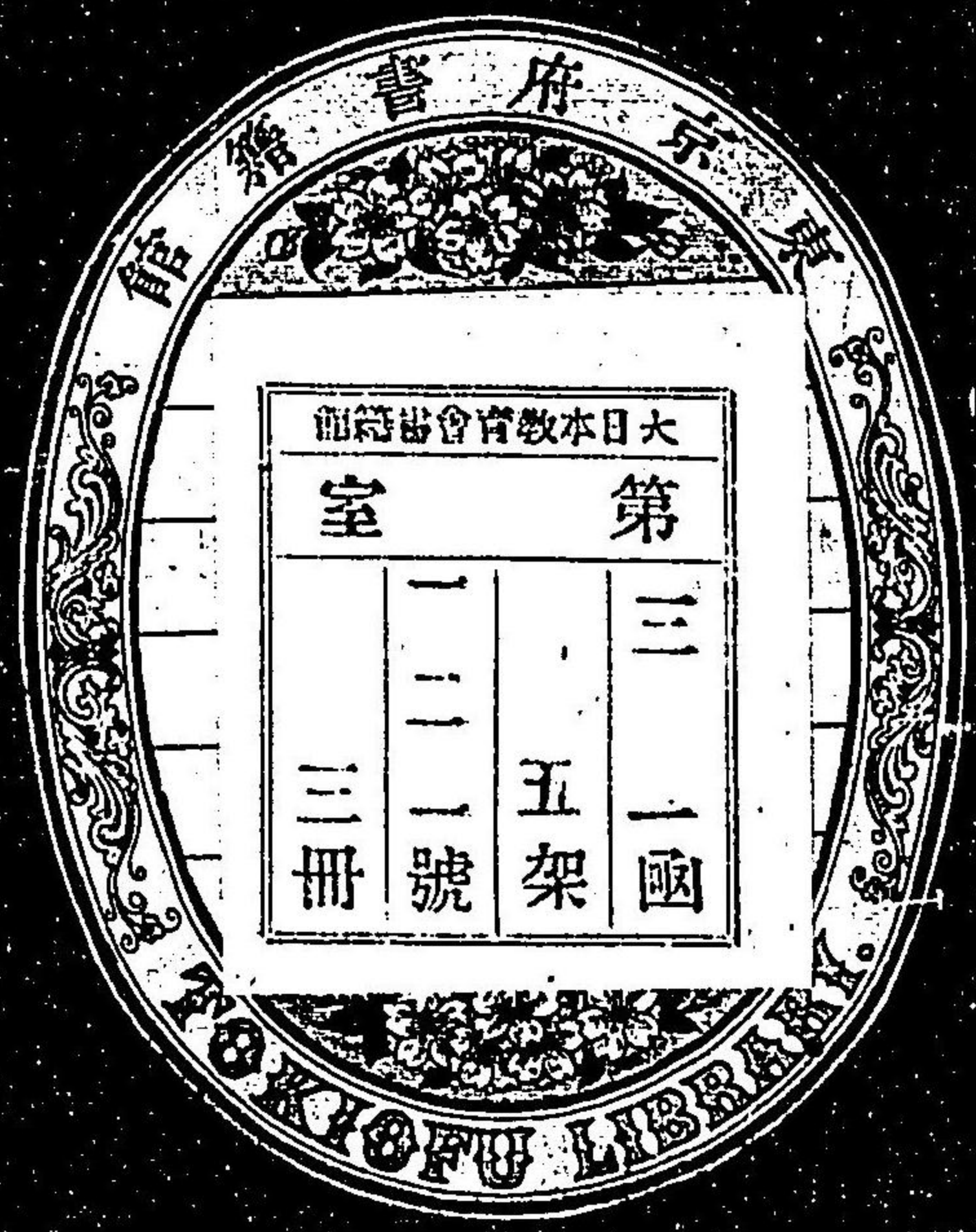


頭書
荻田長生著
内國大概
二五



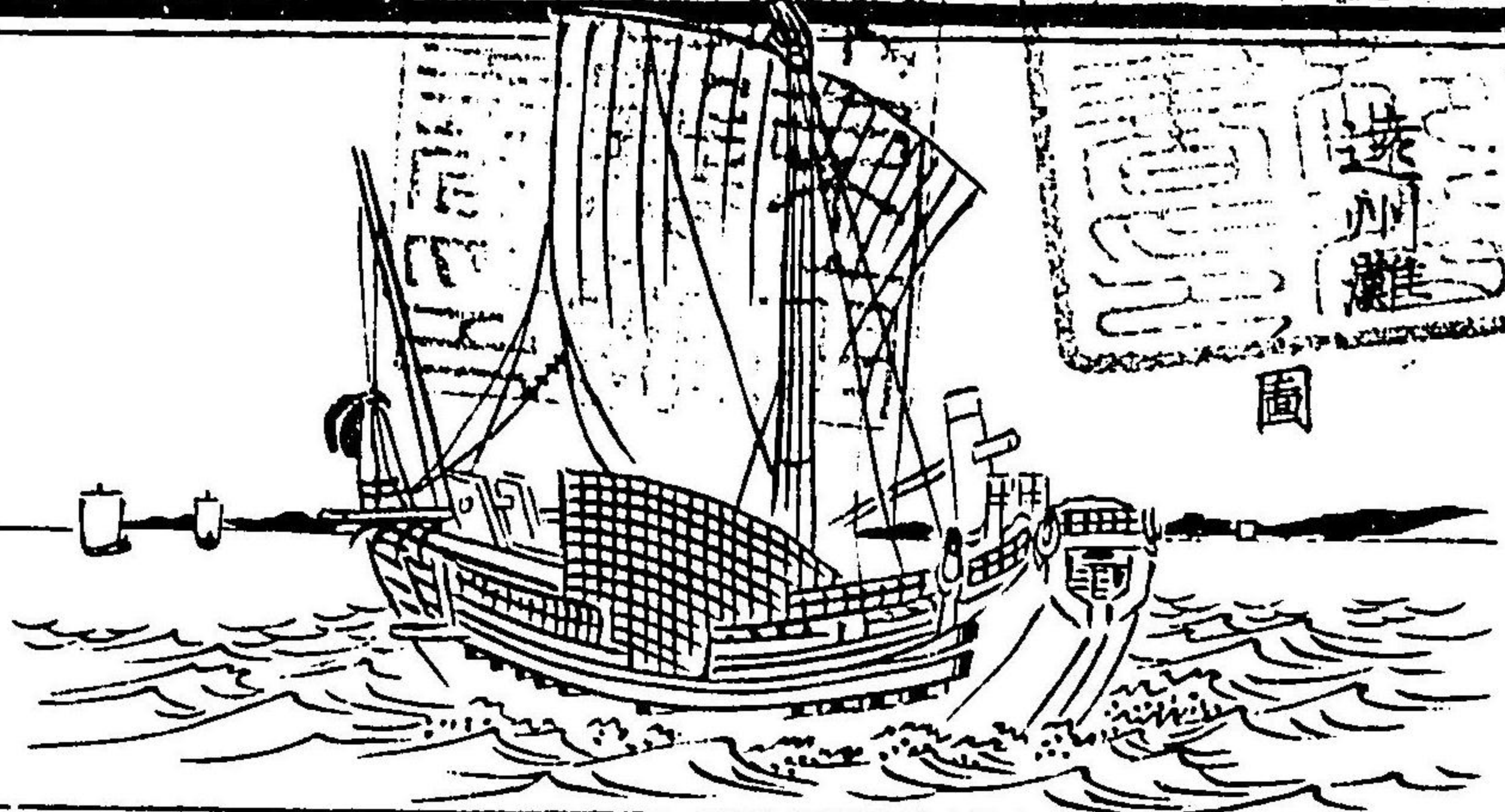
特31
415
共
三
本

特34

415

遠州灘

圖



遠江國東駿河大井河

を界し西三河也信

濃よ鄰り南海を隔

て伊豆よ對ひ西北險隘

東南漸平坦郡を置く

刀削不既

二二

宣化天皇 元年 丙辰

諱ハ武小廣國押

盾一名ハ檜隈高

田繼體天皇の第

二子安閑天皇の

同母弟在位四年

小一ヶ崩ず壽七

十三大和高市郡

身狹桃花鳥坂上

の陵ヲ葬る

十二曰く麓玉長上磐

田周智山名佐野榊尔

珠东濱名敷智斐回

引佐重喜二年二万八千

六百石人日廿四系二万四

廿九代

欽明天皇 元年 申

諱ハ天國押開廣

庭繼體天皇の長

子母ハ手白香皇

后在位三十二年

小一ヶ崩ず壽六

十三太和高市郡

檜隈坂合陵小葬

百濱松縣治我智郡

少何里秋系白が秋春

嶺春自大日白岩高像

ホ乃群帳中およ山家し

天龍大井東海道中

天皇始て四月吉
日を以て、加茂神
を祀る、

三十代

敏達天皇元年

諱ハ淳中倉大珠

敷一名ハ譯語田

欽明天皇の第二

子母ハ石姫皇后

宜化天皇の女在

乃大河昔々南流して

海入る魚川群島

呂乃一區在里

駿河と東北甲斐西

遠江小橋一南遠江

位十四年ホ一て
崩ズ、壽四十八河
内石川郡磯長中
尾陵ニ葬リ

卅一代

用明天皇元年

初大兄皇子と稱

十一名橘豊日欽

明天皇の第四子

母ハ皇太夫人堅

洋ヨ枕む通玉山岳石
多河流も二少一と世
都を分は七曰く志古

益以有度安倍彦原

富由士駿東靜玉外流

駿河 薩埵峠 乃因



あ倍初ま在り全國を
香氏重高廿三萬七千
九百石人口竹五萬二千七
百本富士峰此高峻
なる系なる第五等乃

塩媛蘇我氏稻目
の女在位二年は

一々崩す壽六十

九或ハ云ふ四十

一河内石川郡磐

余池上陵は葬る

三十二代

崇峻天皇元年

諱ハ泊瀬部欽明

天皇の第十二子

名山少々直立一ふ四百

十支又山脚相控甲斐

伊豆甲州は隣り群

密下よ列以而して絶巔

野村雪を築き天表は

母ハ皇妃小好君
 蘇我氏稻目の女
 在位五年蘇我馬
 子の為に殺さる
 壽七十三大和十
 市郡倉梯岡陵に
 葬る、群臣敏達
 天皇の皇后を推
 奉りて位に即
 ち

魏峨たを外國の船
 返來の時に其を以て標
 準とし望いよふ由に
 大井の大河其他瀬戸
 津鵜飼香野等も之

三十三年
 推古天皇元年
 諱ハ豊食炊屋初
 額田部と稱す、欽
 明天皇の第九女
 用明天皇の同母
 妹母ハ蘇我氏稻
 目の女、在位三十
 六年より崩す、
 壽七十五遺詔し

南江と海に入る清
 小港海濱の好女
 津東海居振の驛
 甲斐國東武藏お摸



西水信濃南後河は抵
 里崗密の周囲地土平坦
 以て全五乃高二十
 女系ありて人貴廿九方
 七の九百米山梨八代

て薄葬せしむ河
 内磯長山田陵は
 葬り一は竹田陵
 又作る

三十四代
 舒明天皇元年己丑

諱ハ息長足日廣
 額田村と稱す敏
 達天皇の嫡孫父
 ハ押坂彦人大兄

臣麻部留給る四郡
 山梨縣山梨は在り富
 士河乃源信濃は起り
 本州は出化地花風
 皇駒は嶽白嶺七面身

皇子母ハ糖手媛
皇女在位十三年

崩す壽四

十九滑谷岡ニ葬

後大和城上郡

押阪内陵ニ改葬

大

三十五代

皇極天皇元年

諱ハ天豐財重日

延板垣金峰天目才

の比山西水小駢列支府

中玉内乃産物相通

此形為あり

伊豆國ハ相控駿河

足媛寶皇女と稱

以敏達天皇の曾

孫押阪彦人大兄

皇子の孫茅渟王

の女母ハ吉備媛

王櫻井皇子の女

在位四年位を輕

皇子ニ禪る

三十六代

孝德天皇元年

内國大槪

に接一東ハ海濱を隔

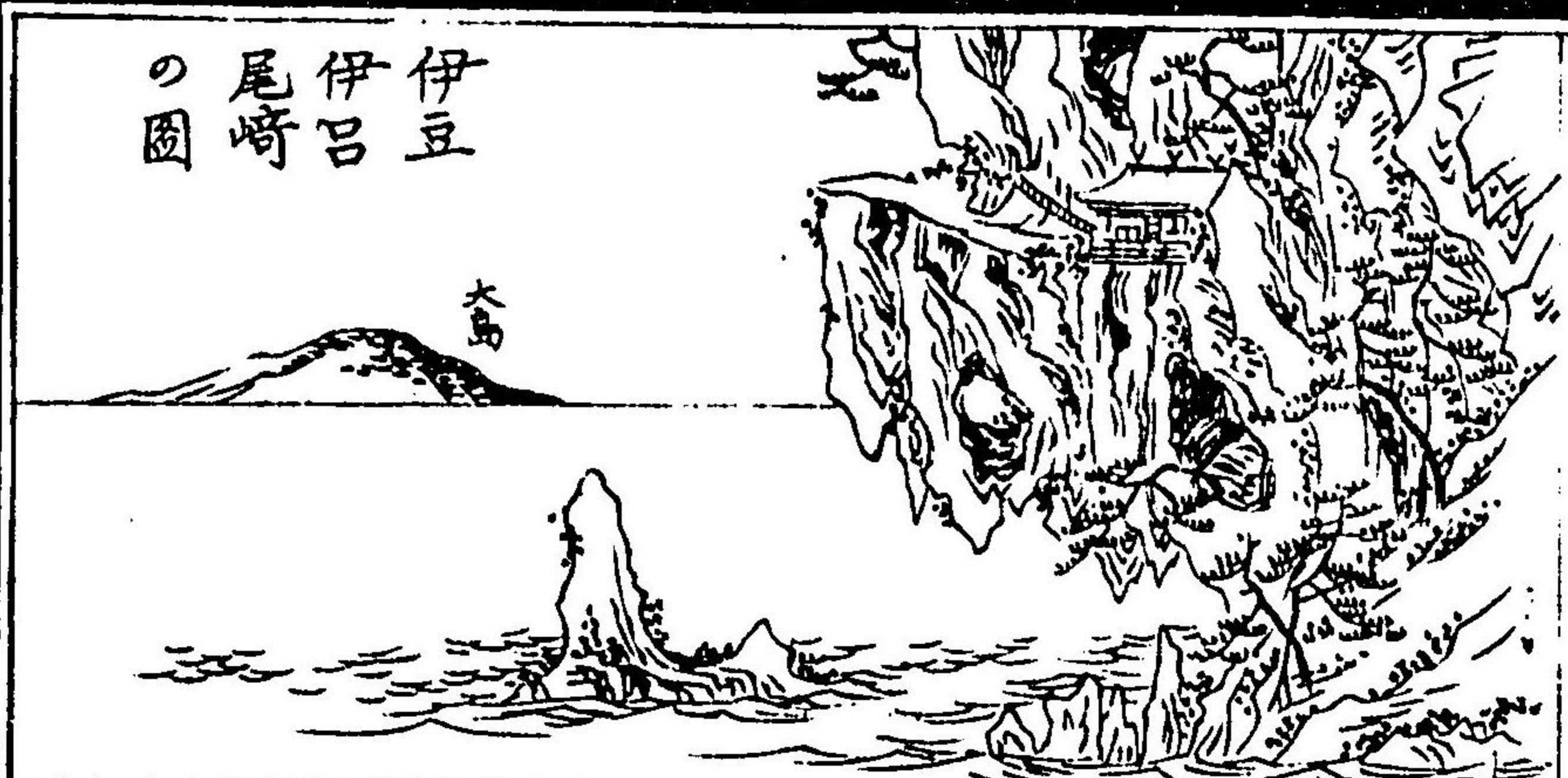
て安房よ勤行の半

國内狭陸

山嶽起伏分はる四郡

と以及曰く田方郡賀

伊豆伊呂尾崎の圖



加茂香津総る足柄
 総れ下たり石高八万
 三万八千余民口十二萬五
 千有八丈三宅乃徳乃
 此乃小原以天城山必

諱ハ天萬豊日輕
 と稱す皇極天皇
 の同母弟在位十
 年改元す二日
 く大化曰く白雉
 天皇崩ず壽五十
 九河内石川郡大
 坂磯長陵に葬る
 三韓の使來吊に
 三十七代

の中央あり函根嶽
 天下の嶮乃東海の鎖
 鑰と云ふ温尔處に在
 り而して熱海を以て小
 れが取と以て山必内

齊明天皇元年

皇極天皇重祚す

在位七年大和高

市郡小市岡上陵

と葬る

三十八代

天智天皇

諱ハ中大兄初葛

城皇子と稱す舒

明天皇の長子母

乃通邑下田東系

来住れ大舸錠泊乃一

海漢堂集

相模国西ハ伊豆駿河

甲斐武藏下接

南ハ伊豆安房の海

秋む八土分て九郡

と以て曰く是柄上是

招下餘彼大任愛甲

高座通合川浦津久

ハ皇極天皇在位
十年ホ一々崩す
壽五十八山城宇
治郡山科陵と葬
天皇學と好み文
と能十庠序と設
け五禮と定め群
臣ノ命トて令二
十二卷を撰す嘗

て朝倉行宮を造
る材木斲らず務
て質朴なす時人
黒木御所と云ふ
又木丸殿の歌を
製す後世以て神
樂曲と為す

三十九代

弘文天皇

諱ハ大友初伊賀

總計サ五万ハる二百云

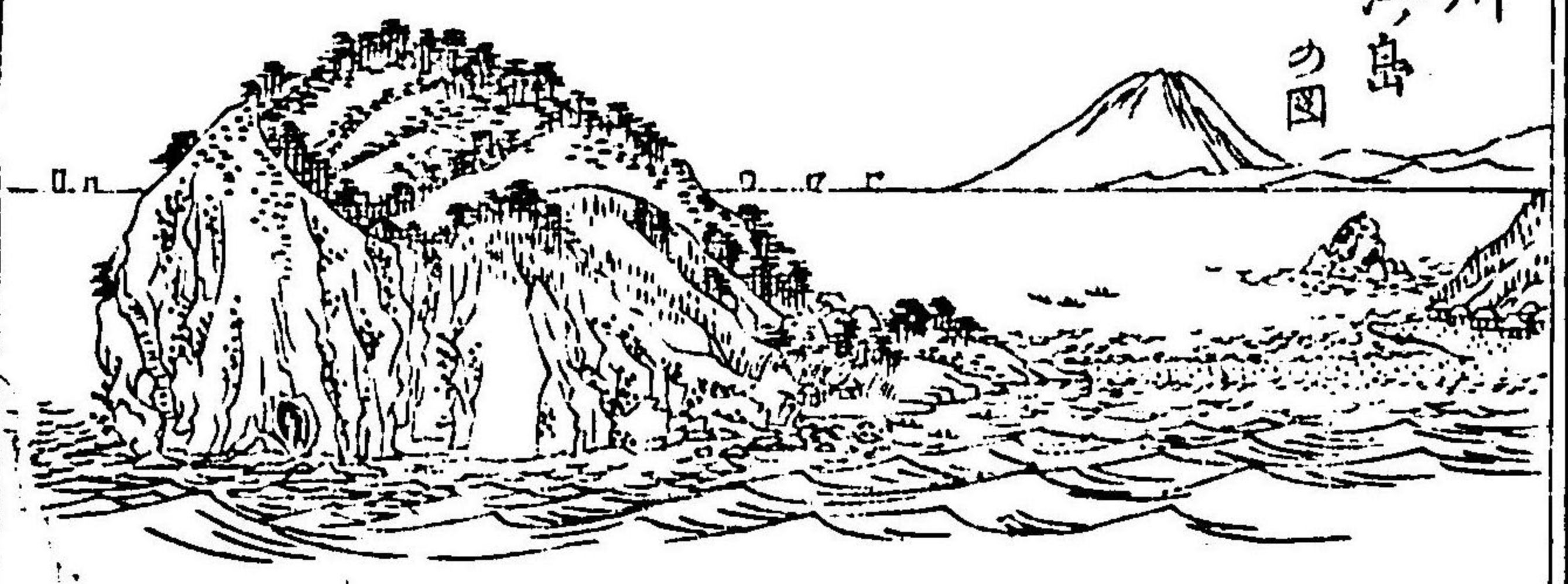
人口サ七万ハる年足拓

縣足拓下少何り本州

六初伊を一國を管轄

以是拓大山石橋、高

相州
江島
の國



鷲の諸名峰あり箱根

乃湖水山々一匯る湖

東ノ七所の沼尔涌出

以沼向馬入之流南下

し海入る小田原人

皇子と稱以天智天皇の長子母ハ

伊賀采女宅子の娘在位九月

崩ず壽二十五

近江滋賀郡長等

山藺城寺に葬る

四十代

天武天皇

諱ハ天淳中原瀛

家稱宮海邊乃道衛

深倉君朝府の薙蹟其

地名孫名区サイとセ

横次坂造船寮の所在

浦加ら港乃巻呂高船

真人小名ハ大海人天智天皇の長

子母ハ伊賀采女

宅子の娘在位十

四年改元す一

朱鳥といふ壽六

十五大和檜隈大

内陵に葬る

四十一代

持統天皇

尾を衝ふ入津の布帆

武藏國西ノ甲斐信濃

南ノお換お上野ノ家

東下総ノ接ノ海濱を

諱ハ高天原廣野
 小字鷓野讚良天
 智天皇の第二女
 母ハ嬪遠智娘蘇
 我氏右大臣山田
 石川麻呂の女天
 皇ハ天武天皇の
 皇后皇太子を奉
 トて制を稱す、三
 年太子薨代在位

海々屋総二由よ常
 必内東方平遠所岳
 三原武甲小佛高尾
 乃志山西南よ秀乃中
 川利根墨田丹波等

八年位を皇太孫
 小禪る後五年小
 して崩に壽五十
 八遺詔して薄葬
 せむ、飛鳥岡よ
 火葬し大和高市
 郡檜隈大内山陵
 よ附む、
 四十二代
 文武天皇

各源と西南小葎
 東海小逆源以通
 多つて二十一郡
 曰く久良都筑多
 鹿福樹荏尔建

武蔵東日本橋



是之新座入間高麗
 比企横見崎五丈里
 男哀幡羅榛澤那
 珂兒五秩父賀美葛
 飾其石高百十六萬

小名ハ珂瑠天武
 天皇の孫岡宮天
 皇草壁の子母ハ
 元明天皇在位十
 一年改元する二
 曰く太寶慶雲壽
 二十五飛鳥岡
 火葬一檜隈安古
 山陵ニ葬る
 四十三代

七千九百人員百二十
 方四千の百。

皇城豊島郡ニ在り。

環トすよ二層の濠を

以石壁乃其の數

元明天皇

小名ハ阿閉天智

天皇の第四女文

武元正二天皇の

母母ハ嬪姪娘蘇

我氏大臣山田石

川麻呂の女在位

八年改元一和銅

といふ位を元正

天皇ニ禪る後六

十丈内屬よ

皇宮ハ攝官省寮

司魏然とて百官未

れよ列方今の萬

機出集議

年一々崩ず壽

六十一遺詔して

薄葬せしむ大和

添上郡推山陵よ

葬る

四十四代

元正天皇

諱ハ冰高一名ハ

新家文武天皇の

姪位ニ在る十年

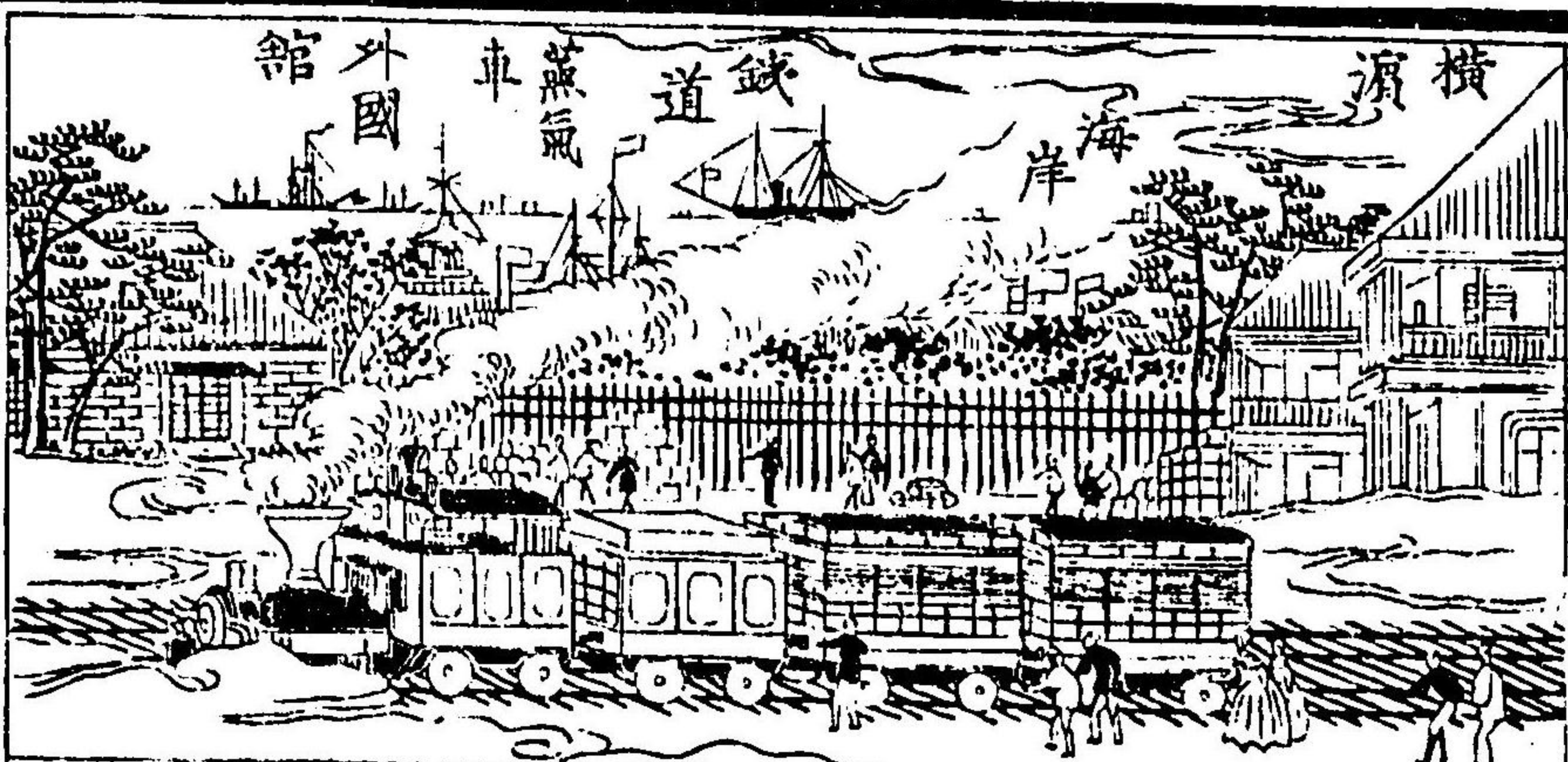
院大小學病院多院

勿後火輪車淺道傳

信棧の設悉く備らる

都下の街衢

教正齊りて且雄略



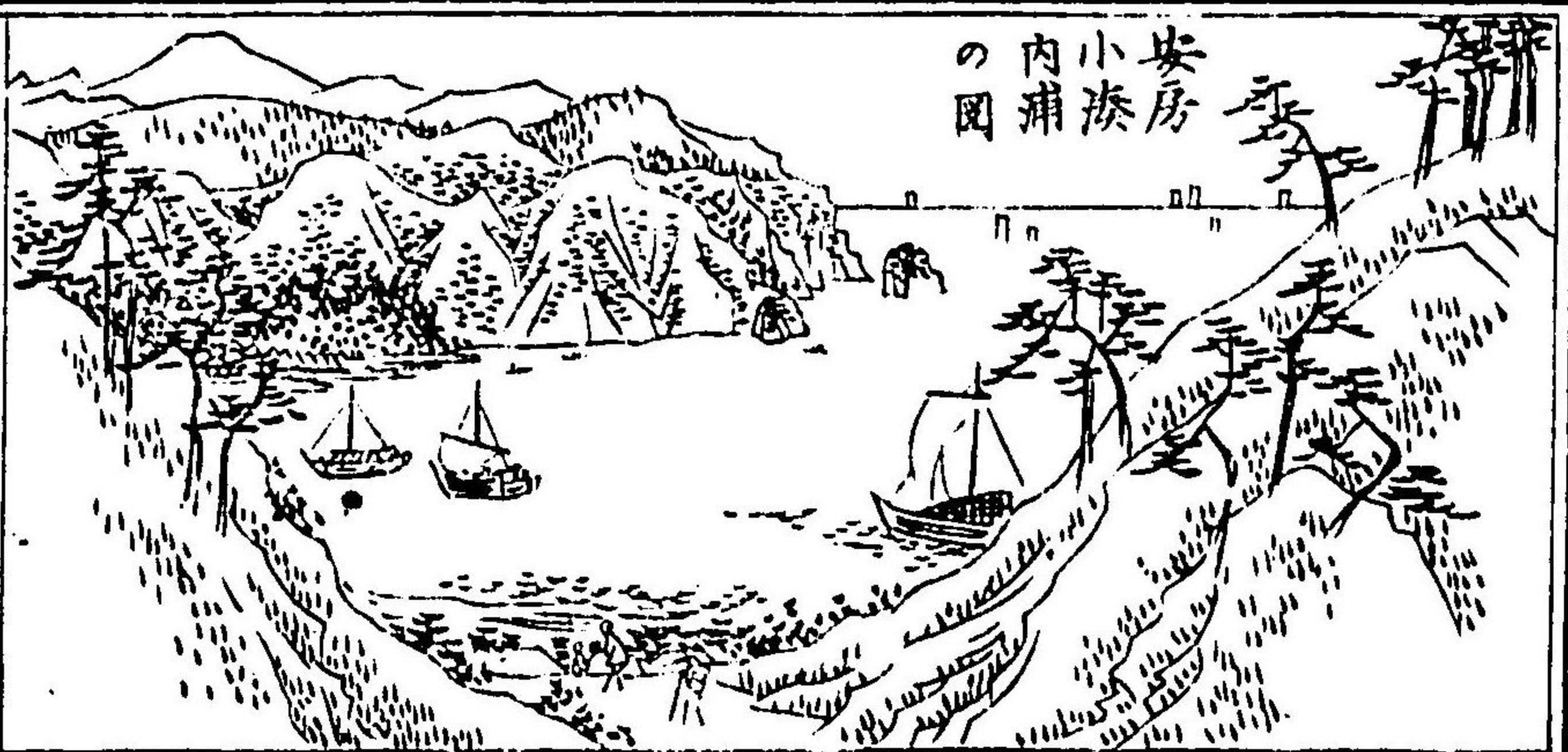
と極の○オノ小程舟フチ船乃

往來駱驛ヒキツグイテと

如織ウキ園地ククリシナイ廣袤トウキヤウニシノ幾

十里リノ人口ヒヤマン百萬餘ヒロサ矣

東洋セカイオウノヒガシデノの大都オホ會シヤとよ



へ横濱○トヨコ東京と距マる

七里トリヒキスルクニ交通ツウツウ十六國シロクニの商シヤウ

船フネ少オホよムコイ茶チヤ草クサ平ヘイ一イツ全ゼン

吾家ワケ中ナカ乃ナリ貨物カモノ互タガヒ市シ

の大ダイ勢セイ最サイ大ダイたりト東京トウキョウ

改元する二靈亀
といひ養老とい
ふ位を皇太子と
禪る後二十四年
ふして崩ず壽六
十九大和添上郡
佐保山陵に火葬
す後大和奈保山
西陵に改葬す
四十五代

有建高郡河内四郡
と掌轄支神奈川
縣久良岐郡あり本
州の四郡及お握三
郡を管す埴玉縣埴
田

入縣廢間
止熊
谷縣
二屬
ス

聖武天皇

諱ハ美麻斯一名
ハ首文武天皇の
子母ハ太皇太后
藤原氏諱ハ宮子
右大臣不比等の
女位ニ在す二十
六年改元す三
日く神龜天平天
平勝寶位と皇太

玉郡河内三郡
管轄入間縣入
郡河内七郡と管
轄す
安房北上総下總

子_二禪_一り薙_二髮_一して自ら三寶奴と稱し又沙弥勝満と稱す崩ず壽五十六佐保山南陵に葬る

四十六代

孝謙天皇
諱ハ阿倍聖武天皇の女母ハ仁正

至_二二面海_一に枯_二木_一の半
多_二く_一また香_二那_一を_二分_一つ
四_二平_一あ_二る_一朝_二夷_一長_二挟_一
沿_二る_一千_二葉_一船_二よ_一房_二
す_二其_一子_二其_一る_二九_一系_二あ_一三_二子_一九

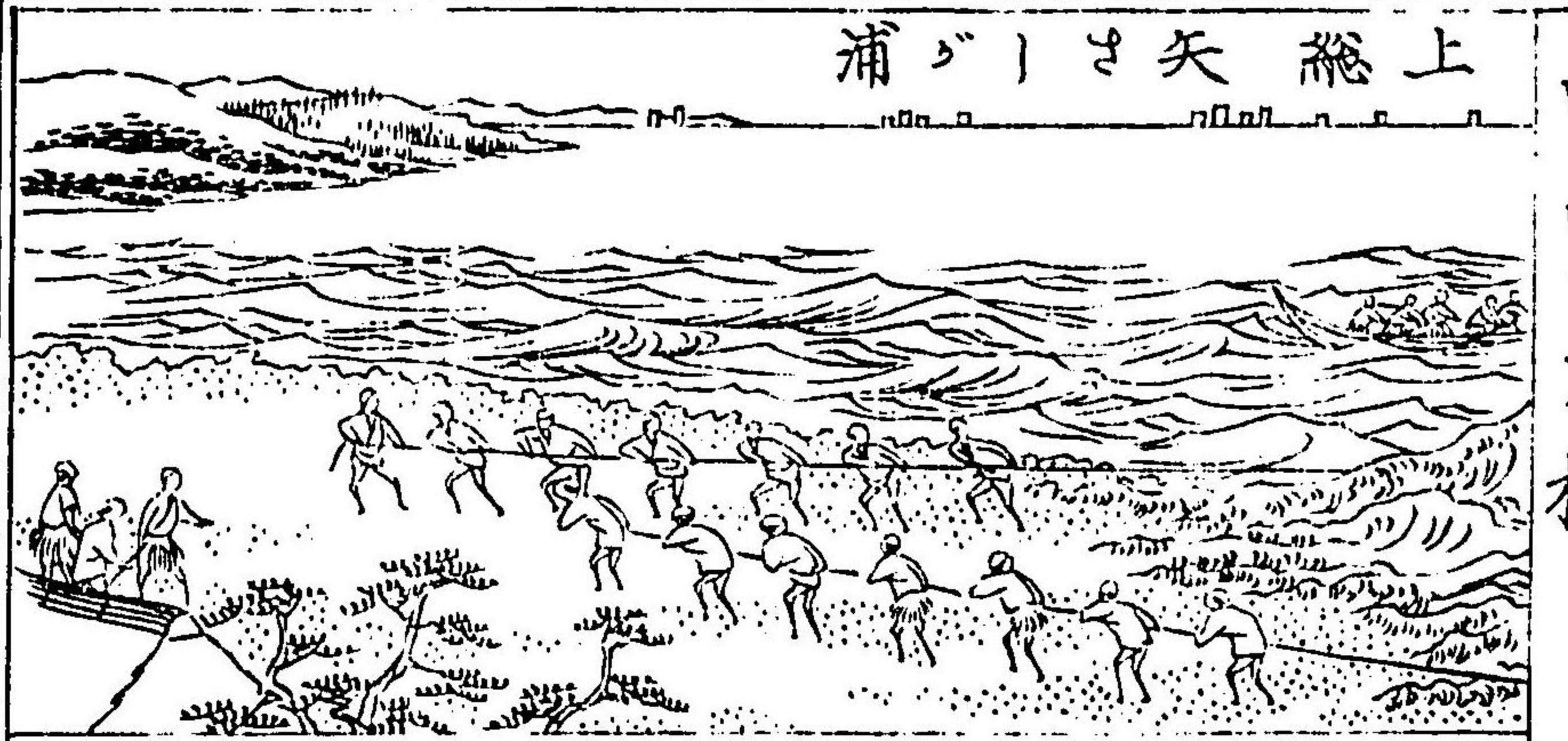
皇后藤原氏諱ハ安宿右大臣不比等_二の女_一位_二在_一す十年改元す二、
曰_二く_一天平勝寶天
平寶字位を皇太子_二と_一禪_二る_一
四十七代

淳仁天皇
諱ハ大炊天武天

百_二余_一人口_二十_一二_二万_一三_二千_一五_二百_一鉅
山_二西_一に_二修_一り_二え_一館_二山_一に
條_二勝_一山_二各_一に_二産_一産_二運_一輸_二
の_二通_一邑_二あ_一衆_二
上_二總_一國_二あ_一房_二下_一総_二の_一る_二
アヒダ

木更津縣 廢止 一圓 縣ノ管轄

浦ノ矢総上



小作り東西海ふ浪む。
 玉中多つそ丸初と風。
 日市原武射埴生理院。
 周淮大羽夷瀟長板。
 山邊凡る二千九万七千。

皇の孫舍人親王
 の第七子母ハ太
 夫人當麻氏諱ハ
 山背上総守當麻
 真人老の女在位
 八年淡路ニ廢す
 明年崩ず壽三十
 三寶龜三年三原
 郡ニ改葬す九年
 三月敕して墓を

一石人口二千六万四
 千五百本更津縣望
 陀那一住り本玉及び
 安房一圓を管首以加納
 山一庄玉内の高峻小田

一ノ見

四トシ

山陵と称す明治三年追謚して、淳仁天皇と曰ふ、

四十八代

稱徳天皇

孝謙天皇重祚す、在位六年改元す、二曰く天平神護曰く神護景雲崩ず、壽五十三

本川東流し海入

る大多の森、菊間、栗山

名、中乃民庶、群

玉の部、高たり。

下、総は武蔵國の東

よ在る、南と総と鄰

り、東と太平洋と面、以

州内、山、峯、充、年、坂

東、古、郎、川、ち、ま、海、れ

海、湾、又、り、利、根、川

大和、添下郡佐貴、郷高野、陵、又、葬り、天皇佛を崇び、刑を恤み、勝寶の際、政、儉、約、と、稱、す、清、麻呂、誅、せ、ら、れ、道、鏡、權、を、擅、す、す、り、より、役、を、興、し、寺、と、繕、ひ、國、用、費、凋、一、政、刑、寬、濫、な、り、

印播 縣癡 止千 葉縣 安房 上總 一圓 下總 九郡 ヲ管 ス本 廳印 播郡 佐倉 二有



東注常陸海よ爲つ
 中央印播湖あり
 以播縣湖畔佐倉
 ある九郡を管以三
 郡新治縣よ属を総

四十九代

光仁天皇

諱ハ白壁天智天皇の孫春日宮天皇施基の第六子母ハ贈皇太后紀氏諱ハ椽媛贈太政大臣諸人の女在位十二年改元ナリ二曰く寶龜

計ナ二曰く碓城猿
 崎葛飾相馬石田豊
 田千葉植生以播香
 取匝瑳海上其石高
 五十六萬八千二百人

四十九代

五十一

天應位と皇太子
 一禪子崩す壽七
 十三廣岡山陵
 葬る後延暦五年
 大和添上郡田原
 東陵に改め葬る
 天皇政と為す大
 綱を擧げ苛察お
 らず冗官を省き
 清化を崇ぶ故に

四十七年八千七百六
 古河関宿鉦子各者
 名乃形落あり
 常陸國北條城西
 南下野下総に接し
 ツキアヒ

四海晏如遐途欣
 戴に

五十代

桓武天皇

諱ハ山部光仁天
 皇の長子母ハ皇
 太皇后高野氏諱
 ハ新笠贈太政大
 臣乙繼の女在位
 二十五年改元す

東に海に枕む國の分
 つまに都と名を曰新
 治真磐筑波河の信太
 茨城より方荒島那河
 久益多珂其言九千万



常州
築波山

予七百人。人口罕八萬五
 分の百。新治縣、肥新治
 郡、土浦、あるは本州
 六郡、下総、三郡、を管治。
 茨城、新治、茨城、那水

一曰く、延暦崩
 十、壽七十山城紀
 伊郡栢原陵、
 三、

五十一代

平城天皇

諱ハ安殿桓武天
 皇の長子母ハ贈
 太皇太后藤原氏
 諱ハ乙牟漏内大

戸に在り五郡を轄治。
 筑波峰、雲海、秀
 下其山脉、中、綿互
 出、其之間、若森、之、新治
 乃、有、石、区、之、名、あり。

臣良継の女位
在る四年改元す

一大同といふ
位を皇太弟の禪

後天長元年崩
ず壽五十一大和

漆上郡楊梅陵
葬る

五十二代

嵯峨天皇

東山道十二は一百十六

郡公結ぶ。

近江國山城は乃正東小

東は美濃伊勢南

伊賀は若狭越前は抵

諱ハ神野平城天
皇の同母弟在位

十五年改元す
一日弘仁位を

皇太弟の禪り後
十九年ふして崩

ず壽五十七遺詔
して薄葬せしむ

山城葛野郡嵯峨
山上陵に葬る

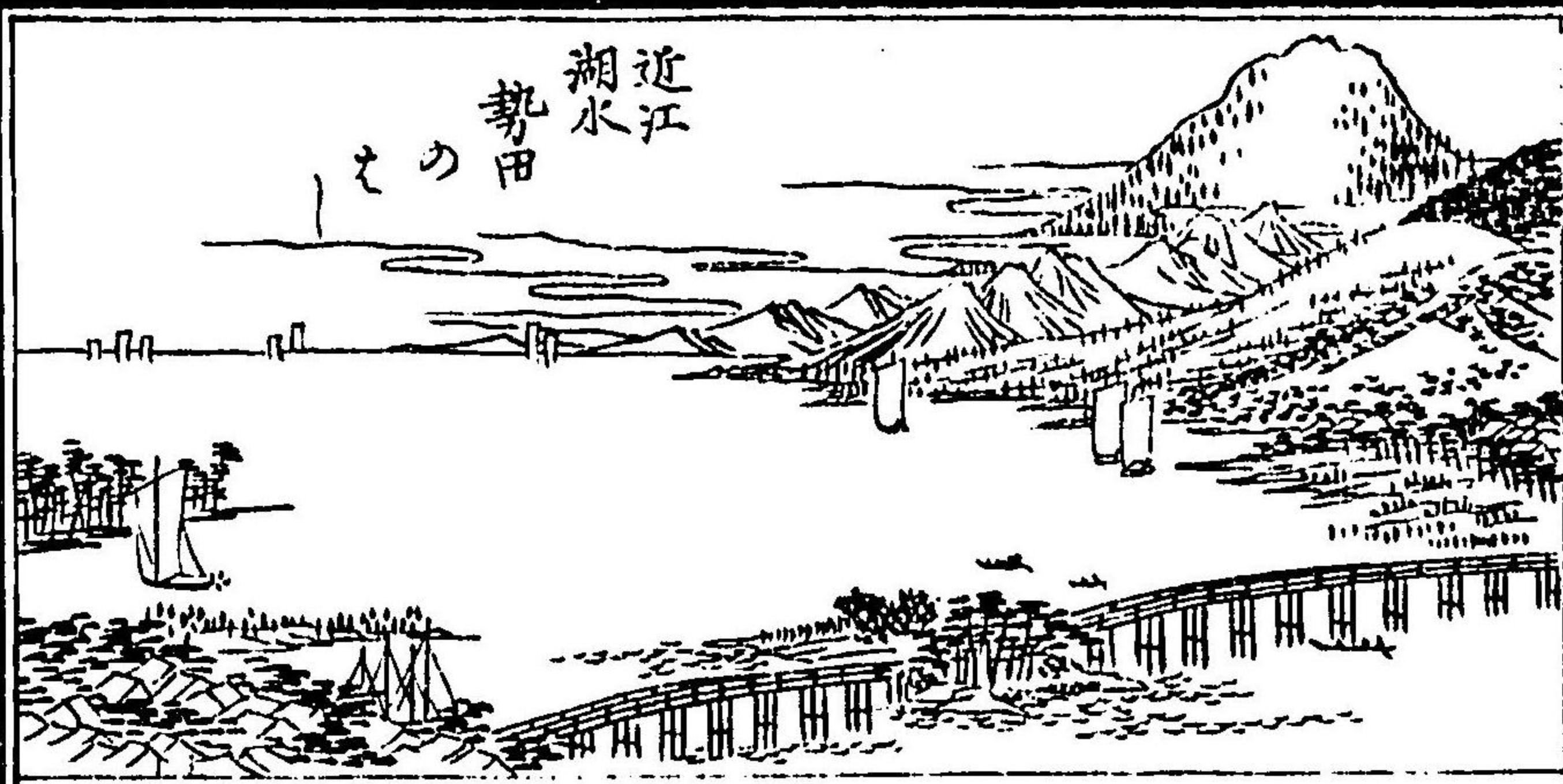
崗の四方に圍繞

中央に琵琶湖あり南

北二十里幅欠甚廣の

北に真崎川生

島重化のふ興七八分あり



近江流舟十餘艘を以

て北州往來乃使ふ

供も滋賀縣滋賀郡

大津に在り全國を管

以通計十二郡曰く滋賀

五十三代

淳和天皇

諱ハ大伴桓武天

皇の第三子母ハ

贈皇太后藤原氏

諱ハ旅子贈太政

大臣百川の女位

ニ在リ十一年改

元十一年曰く天

長位を皇太子ニ

栗本野洲蒲生神崎

愛智大上坂田所井伊

高橋甲賀其等八十二万

六八百人民五十三万二千

比叡の山脚西に在り

禪り後七年一
て崩ず壽五十五
顧命して薄葬せ
しむ山城乙訓郡
物集村に火葬し
御骨を碎て大原
野西山嶺上ニ散
ず、

五十四代

仁明天皇

諱ハ正長嵯峨天
皇の第二子母ハ
皇太后橘氏諱ハ
嘉智子贈太政大
臣清友の女在位
十八年改元す
二承和といひ嘉
祥といふ崩ず壽
四十一遺制して
薄葬せしむ山城

比良膳吹三正の徳子

半天下後年一え四山の徳子

湖小入る水

口日野ハ幡衣根名敷

生者賈難當の地あり

クテ アキンドリ タントアツマル

美濃國東ハ信濃ニ河

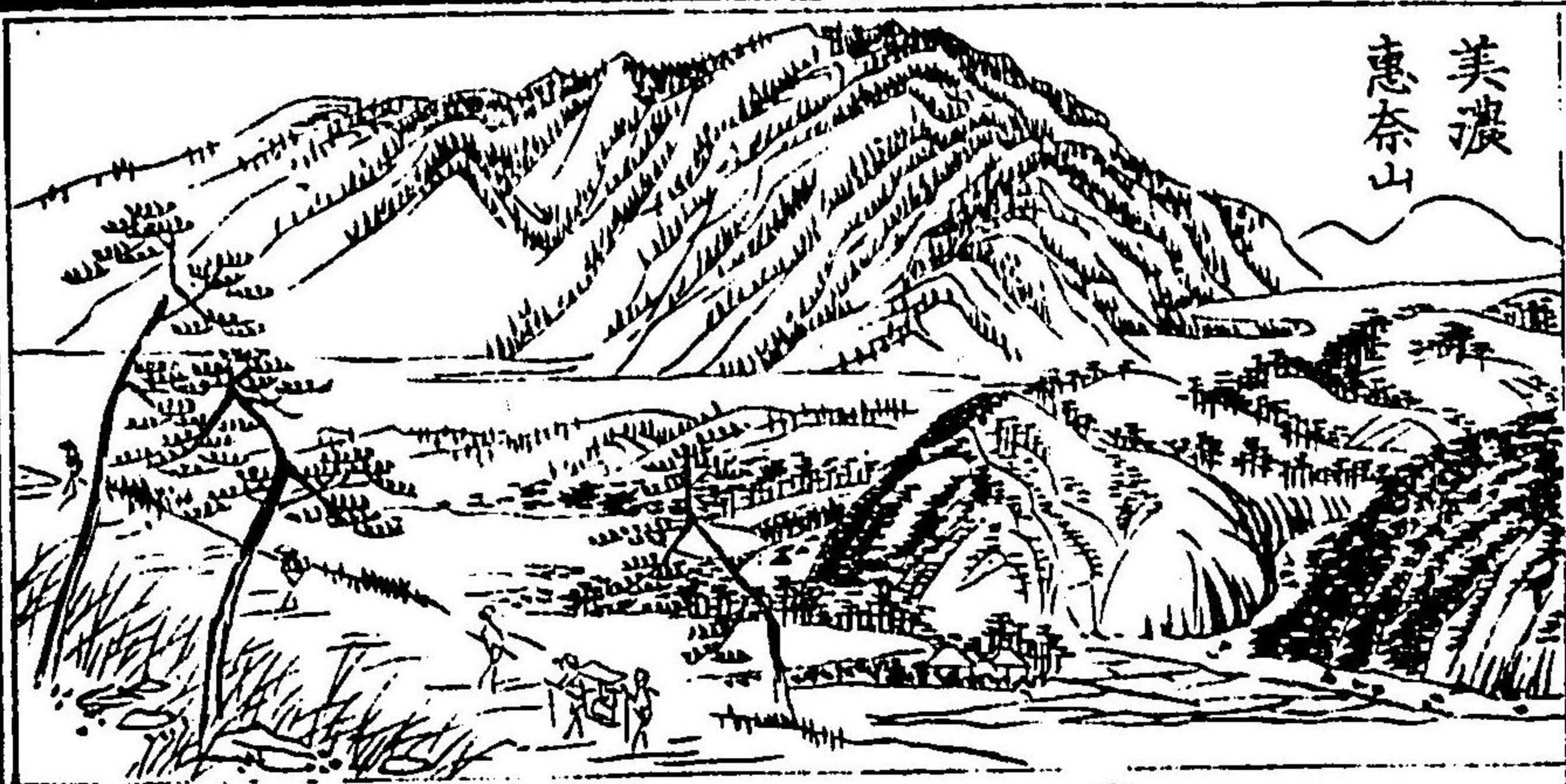
西ハ近江ニ流り南ハ伊勢

小ハ砥石ニ流り北ハ接す

通至多々一郡といき日

多藝石津不破安八

美濃
惠奈山



池田厚見各務山野武

飛騨上賀茂可見上岐

直系方縣海西兼栗

中嶋総崎阜縣乃菅

轄たり。地勢寬廣本

トチノイキホト

トチノイキホト

紀伊郡深草山陵

一葬る

天皇聰睿衆藝を

綜べ經史を好み

射を工より書を

善き又奢靡を好

み後宮の飾古今

比み一故に府帑

空虚賦歛滋く起

る

曾川乃源少乃起系

惠系乃源栗杉檜山等

赤木乃源大垣加

細岩村心相各士民難

石の交をり全國の事

五十五代

文德天皇

諱ハ道康仁明天
皇の長子母ハ皇
太夫人藤原氏諱
ハ順子贈太政大
臣冬嗣の女位ハ
在リ九年改元ナ
リ三曰ク仁壽齊
衡天安崩ナリ壽三

六十の方々多る年人員

五十六萬の字なるの

飛驒の地土高厚通

山々西加賀越前

東信濃を抵り北越中

十二山城葛野郡

田邑山陵小築

天皇心を政事

留め明察神の如

五十六代

清和天皇

諱ハ惟仁文徳天
皇の第四子母ハ
皇太后藤原氏諱

事ハ文徳ノ家ハ郡

のつ三ノ大御といひ

益田といふ

摩訶ノ属を其高四

の字多る人員八萬一



飛彈
乘鞍嶽

百餘乘鞍硫黃錫杖

白木の諸嶽天降よき

高山必乃中央より在り

旅籠町の少部令と

信濃國西飛驒越中

ハ明子太政大臣
良房の女在位十
九年改元す一
曰く貞觀位を皇
太子と禪り後四
年一々崩す壽三
十一遺詔して薄
葬せしむ粟田山
火葬し御骨を
山城葛野郡水尾

小糸一南ハ信濃三

河遠江駿河東武蔵

甲斐越後よ隣ふ通

國山嶺園遠北土突元

平度の処ありと之

山陵よ置く、
 天皇端嚴よ一て
 寛和好で書を讀
 ん政を勤め又深
 く佛を信ず藤原
 良房基經之と輔
 佐一諸吏職よ稱
 ひ内外肅然後世
 貞觀の治を稱す、
 五十七代

どもおまゝの部新跡
 少多し。相代へ向飯田、
 少諸岩部田等其地
 あり。高六十一万々ハ
 百石人曰七千三百ハ多音



余筑摩縣松本あ在
 王州内四郡及飛驒一
 國を管轄し長林土絲
 水内郡あり六郡を統
 轄す。國分て十郡と

陽成天皇

諱ハ貞明清和天皇

皇の長子母ハ皇

太后藤原氏諱ハ

高子贈太政大臣

長良の女在位八

年元と改むる一

元慶と曰ふ藤原

基經の為ニ廢セ

らる後六十五年

以及曰く倭那、倭那、筑

摩安曇、更級、埴科

水内、高井、小縣、佐久、諏

訪湖、玉乃、中央、在り、御

嶽、駒、岳、和、田、嶺、大、倉

崩ず壽八

十二山城愛宕郡

神樂岡東北陵ニ

葬る

五十八代

光孝天皇

諱ハ時康仁明天

皇の第三子母ハ

贈皇太后藤原氏

諱ハ澤子贈太政

高倉、白、峰、戸、池、山、尤、秀

峻、反、村、も、雪、と、降、く、凌

間、火、山、噴、烟、天、よ、升、る

天、龍、川、信、濃、川、南、山、よ

分、泥、寺、注、来、の、山、乃、棧

大臣總繼の女在
位三年元と改む

一仁和と曰ふ

崩す壽五十八山

城葛野郡田邑陵

は葬る後田邑陵

と為す

五十九代

宇多天皇

諱ハ定省光孝天

関を聖に生念海内よ

多岐とくふ

上野國武藏のふも在

りそ高五十九萬一千

八百人民の千九萬七千

群馬縣 止熊 谷縣 武蔵 十三郡 上野郡 一郡 菅 廳 馬前 有橋



口初とくもの千十四碓氷
は岡甘樂多湖録聖
形波群馬吾妻利根
勢多佐位以上居る
乃所轄たり是亦初

皇の第七子母ハ
洞院皇太后諱ハ
班子仲野親王の
女在位十年元と
改む一寛平と
曰上位と皇太子
傳へ後三十四
年一て崩す壽
六十五遺詔一々
薄葬一謚号と奉

田山田ニ都朽本親了
厚以有橋飯林新所
おん巻の多込と以利根
川乃と流少は少何了榛
名妙義確冰赤城三

ずる事勿ら一む
山城宇多大内山
又火葬す、

六十代

醍醐天皇

諱ハ敦仁初名ハ
維城宇多天皇の
長子母ハ贈皇太
后藤原氏諱ハ胤
子内大臣高藤の

國歌おもむくは
通玉山嶺平依起東去
下野西ハ信濃少を越
及よ橋す。
下野は常陸岩代乃

宇都宮縣 癸止 朽木 縣併 一本國 上野 三郡 管



下野日光 裏見瀧

内國大紀

女位_{いづか}に在_ある三十
 四年元_{ねん}と改_{あらた}むる
 三昌泰_{みやうたい}と曰_いひ延_{のび}
 喜_{よろこ}と曰_いひ延長_{えんちやう}と
 曰_いふ位_ゐを皇太子_{みむすひ}
 傳_{つた}ふ崩_{たふ}び壽_{じゆ}四
 十六遺詔_{いせう}して薄_{はか}
 葬_{むす}せしむ山城_{やましろ}宇
 治郡_{うぢぐん}山階_{やまかゐ}陵_{りやう}に葬_{むす}
 る

間_まに存_{ぞん}り南_{なん}へ下_げ総_{そう}より或_{ある}里_り。
 西_{せい}へ新_{しん}よ鄰_{りん}る人_{ひと}を玉_{たま}公_{こう}
 川_{がは}にて九_く郡_{ぐん}とぬきて是_{こゝ}利_り。
 梁_{りやう}田_{でん}安_{あん}蘇_そ都_と賀_が寒_{かん}川_{がは}。
 那_な波_は河_が内_{うち}塩_{しほ}みみ世_よ方_{かた}賀_が。
 總_{そう}計_{けい}六_{ろく}十_{じゆ}萬_{まん}七_{しち}百_{ひやく}石_{せき}。

總_{そう}計_{けい}六_{ろく}十_{じゆ}萬_{まん}七_{しち}百_{ひやく}石_{せき}。
 人口_{じんこう}半_{はん}十_{じゆ}萬_{まん}五_ご百_{ひやく}朽_く木_{ぼく}。
 縣_{けん}都_と賀_が郡_{ぐん}よ河_が内_{うち}本_{ほん}主_{しゆ}。
 五_ご郡_{ぐん}及_{およ}上_{じやう}野_の三_{さん}郡_{ぐん}を掌_{しやう}。
 轄_{くわつ}ひ宇_う都_と宮_{みや}孫_{そん}河_が内_{うち}。

六十四

天皇精を勵ま
治を圖る嘗て寒
夜御衣を脱し
民の凍餒を省
是時國治り民安
一世仁徳天皇
比す後の治を言
ふ者皆延喜を稱
す。

六十一代

郡あり。四郡を管
田原日光ともよ
國内の
通邑土産獨出の地あり
大平、大岩、中禪寺、黒
駿、高、那、波、乃、峯

朱雀天皇

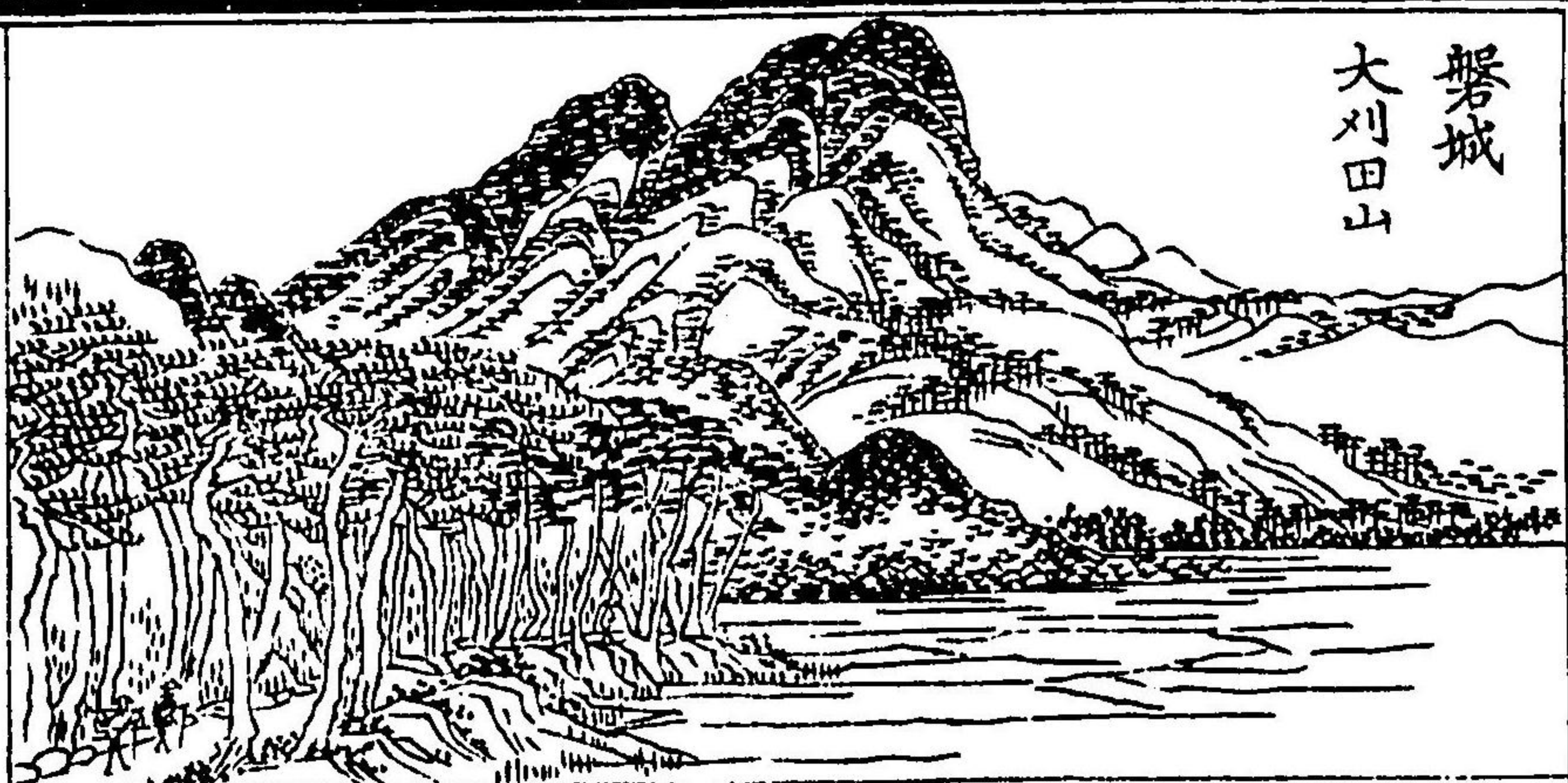
諱ハ寛明醍醐天
皇の第十一子母
ハ皇太后藤原氏
諱ハ穩子攝政基
經の女位ニ在す
十七年元を改む
る二承平と曰ひ
天慶と曰ふ後六
年より一々崩す壽

密西北よ並列し市川
中川の源此よ出づ中
禪ち御日光よ今儲ゆ
岩城國乃陸々前の方
小位一西北岩代東大

三十遺詔して薄
 葬せしむ来定寺
 北野の火葬し御
 骨を山城宇治郡
 後山階陵の側
 藏む朱雀院と稱
 す天皇院と稱す
 る此又始す
 天皇政と為す寛
 仁ふり藤原忠平

東海は徳武道又十
 軍郡曰く白川行交標
 葉松茶田郡磐城石
 川菊多船倉前宇田磐
 前郡十郡を統ぶ白河

磐城
大川田山



磐城郡福崎郡、属を伊具
 亘理、葎田、宇多、宮城
 影、属、白川、磐城、平
 桐、倉、中、村、各、五、民、郡
 石、乃、磐、区、たり、阿、武、隈

之と諫む天皇曰く政ハ琴と張るが如く大絃急ふれば小絃絶ふ朕若く巖急ふらむ下民何を堪えん

六十二代

村上天皇

諱ハ成明醍醐天皇の第十四子朱

川源と岩代貴し。

西も瀬いで東海よ入

る朝日岳大田刈ホの名

山南の方よ嶺向たり

岩代國西越後東ハ

雀天皇の同母弟位又在す二十二

年元を改むる四

曰天曆天徳應和

康保崩ず壽四十

二遺詔して薄葬

せむ山城葛野

郡村上山陵に葬

天皇寛恕して

岩城北陸前羽前あふ

梅南ハ下那よ界ハ

全境実元たる山よ

大熊布川あ達

信夫二股小林盤石様

恩惠偏私無く、意
 と政治は留む又
 明敏學を好み和
 歌詩文を善す嘗
 て命トて名家律
 詩と選む一め日
 觀集と名く又琵琶
 琴工もふり後
 世治を言ふ者必
 延喜天曆と稱す

半田多良木の高山半
 天は從年の會津河原
 ねを越後よ入は金木の
 郡牧九日之信夫安達
 安積岩瀬伊達會津

若松縣五國郡越後蒲原郡管内管

岩代
半田山



内國大既

耶麻大沼河沼若松
 會津郡に在り。河沼とす
 ぶ福島縣信夫郡にあ
 り。本玉女郡及磐梯山
 白河郡を管す二本

シハイヌル

六十三代

冷泉天皇

諱ハ憲平村上天

皇の第二子母ハ

贈皇太后藤原氏

諱ハ安子右大臣

師輔の女位ニ在

る二年元を改む

る一安和と曰ふ

位を皇太弟ニ讓

松州内の好景無是たり

陸前正南磐城北陸

中ニ抵り西羽前岩代

東ニ海ニ枕む通境山

嶺充存黒川嶽之が

後四十四年ニ

崩ず壽六十

二山城愛宕郡櫻

本寺前野ニ火葬

御骨を山側ニ

藏む

六十四代

圓融天皇

諱ハ守平村上天

皇の第五子冷泉

取との金華山海中

あり松崎の風景天

然の畫圖 皇國三名

勝之と何武隈川

岩代と界の流を名取



北上の一大水必内と遠
 王東海より有つ郡を分
 比十四牡鹿桃生遠田
 志田狭美是川宮城名
 取紫因本右登米栗原

天皇の同母弟位
 元在十五年元
 と改むる五日く
 天禄天延貞元天
 元永觀位と皇太
 子と傳へ後七年
 一て崩す壽三
 十三遺詔して薄
 葬せしむ圓融寺
 北原は火葬し御

玉造氣仙も也宮城縣
 治宮城郡よあま本物九
 郡般城四郡と管す本
 吉少栗栗原玉造氣仙
 比五郡水澤縣よ厚比仙

骨を山城葛野郡
村上山陵側よ藏

む、
天皇位を譲る後

紫野は幸いで子
日遊を為し又大

井川は三船を泛
べて詩歌管絃三

科を分つ後世其
風流文雅を稱す

臺石峯松島登米名

煙戸稠密玉内の都會

とよ道

陸中國陸奥陸前乃

間よ何ぞ東々海よ瀛

